

斜めから教えられた教師像

赤羽美代子

去年の4月末、ある小学校より、私に左の依頼がありました。5月10日の母の日礼拝に10分間の話を私にするように。礼拝出席者は1年生〜6年生と、母の会の会員との事でした。出席者の年齢層に大分幅がある。10分間では、内容を纏めて伝達する自信がない。等の迷いもありましたが、お引き受けしました。

母の日は、まだ先の事と楽観はしたものの私の心は落ち着きません。たえず「10分間の話、10分間の話」と何かが叫びます。そして私の胃袋を揺すぶるのです。

早くも5月も5日を過ぎました。私は薫風の香を感じる余裕等は、まったく無くなりました。本気で残り時間に挑戦です。ある時は歩きながら話の纏めにかかります。ブツブツと独り言を云って歩く私を見て、行き交う人は「あー、春は、ああいう病気に罹りやす

い」と心配した事でしょう。夜は、お風呂に砂時計を持ち込みます。大きな声で「皆さん、……です。……ね」と、時間を計り、話の内容をバラバラにしたり、寄せ集めてみた。「この話は20分もかかる。この部分を抜くと、全体の意味がぼやける。この話はダメ。あの話の、あの場面の意味は、短い言葉を捜して話の時間を短縮する。でも、一年生には理解できない。あの話も無理！」たった10分間の話に、何日も振り回される羽目になりました。

苦心の結果、やっと時間も、内容も、どうにか纏まりました。幼稚園の帰宅路は格好のお話の練習時間です。バクバクと、口唇を動かさないように、注意をしますと、かえって息がフーッと口中より押し出されます。ブルルーツと口唇の上下が震えて鳴ります。最新式の春の病気に冒されたまま、我が家に帰宅いたします。

我が家には、97歳の老母がいます。その母は毎朝、私の出勤時には「行ってらっしやい」幼児たちを可愛がってね。叱ってはだめですよ。お務め第一に元気で頑張っってね」と、明るい笑顔で手を振り送ってくれます。家族は、その声を聞くと「おばあちゃんは、今日も元気だな」と、安心するのが、我が家の毎朝の日課です。

早いものです。母の日の前日、9日の日を迎えました。帰宅早々、夕食の膳に着きました。食べる事と、独り言とを同時に、こなしている私を、母は時どきチラーチラーと見えています。私は、母に余計な心配をかけたくないばかりに、母と目が合う度に、ニコニコ顔を振りまきます。それでも老母は黙って、箸を動かしています。

ちょっと白けた夕食が終わりました。

食後、母が私に云いました「M子さん、明日のお話の事で、大分緊張していますね。あなたが緊張すると、聞いて下さる皆さんも、緊張なさるわよ。私がああなたの緊張をほぐしてあげるわね。私と歌を歌わない？」私は、一瞬、自分の耳を疑いました。母は若い時から、自分の歌声は、人様に迷惑がかかるのだと信じていますから。

その母は、女学生時代、友人に誘われて、キリスト教の日曜学校に通った時代があったそうです。時どき、その時代に習った一曲の讚美歌を、自分の青春時代と重ねて思い出すようです。その讚美歌は527番。わがよろこびわがのぞみ わがいのちの主よ。ひるたたえよるうたい、なお足らぬをおもう。

母は自分が天に召される時、「この讚美歌を、美しいお声の方に歌っていただき『あー、面白い人生だった』と云って死にたい」と申しております。

私は意味もなくうれしくなり「いいわよ。一緒に歌いましょう、1、2、3」と、元気に歌い出しました。ところが、先ずお互いのテンポが合いません。母は想像以上にゆっくりと歌います。その上、母の歌は曲の節目が、ながく延びたかと思うと、急に詰まり、節まわしが、ねじり上がったと思うと、えぐった様に下ります。私まで、節目節目で、ウヒィーっと曲をまげこみます。

でも、母は、私の口元をじっと見つめて、ゆったり、まったりと讚美歌を歌い続けます。歯のない口元の、なんと可愛らしい事と、私は思いました。讚美歌の花びらが、一ひ

ら一ひら優しい口中から、こぼれ出てくるのです。

ふと、私の手元が暖かい温もりを感じ、目を落しました。母の手が私の手の上を、歌の流れの様に、静かに撫でていきます。97歳の使い込んだ手の平は、以外に若い頃の母親の感触でした。

今、母はかつて、この手を揺り籠にし、この讚美歌を子守歌にして、我が子を育てた昔に返っているのかも知れません。その穏やかな、豊かなひと時に、私は、母の腕に抱かれて、華やぐ自分を感じました。

漸く、歌の終わりを告げました。「どうお。少しは緊張がほぐれたかしら？」「あら、不思議、私の心の中が静かになったわよ」「そう、緊張がほぐれましたか？ 私の歌も役に立ちましたかねえ」「次は、2番を歌いましょうよ」次は、私が母の幾分、丸くなった背中を撫でる番です。母は「いいのよ。いいのよ私の事は。あなたは明日大役があるんですから。私の心配はおしでないよ」と、しきりに私の手を押しやります。が、そのうち母はコックリ、コックリと、ねんねのお国に出発しました。

突然、時間をかけて纏めた、あの10分間の苦心の作は、何の前振れもなく惜しげもなく私の頭から、すーっと離れ、消えてしまいました。

翌日の母の日礼拝には、今日の日の為に、私の緊張をときほぐす事に、一生懸命だった老母の、あのいとも不思議な、素敵な歌の話を、10分間に纏め大変楽しく語る事ができました。

幸いにも、一年生からおか様方までが、年令の幅を縮めて、静かに暖かい雰囲気で聞いて下さいました。

老母には、97歳という人生の豊かな味わいが潜んでいます。

私に、びったりと寄り添い、ゆっくり、じっくりと時間をかけ、自己犠牲とも云える、下手な歌を歌い、緊張をほぐしてくれる、あのゆとりは、一体どこから、来たのでしょうか？

我が家では、母をドラキュラちゃんと呼んでいます。老母は、多くの過去を知っている先達や、何代もの血を吸っては生き返る、古い品じなに囲まれ、影響を受けました。ある時は、歴史の層化の上に立ち、古さを環境に適應させる、新しい人であり、存在感のある人です。まさしく我が家の、歴史の血を吸った吸血鬼ドラキュラちゃんなのです。

平凡なひとりの老女から、何げなく、生きる姿勢を教えられ、保育学を斜めから、教えられた思いがいたしました。最後に老母の好きな短歌を一首、書き添えます。幼児の環境が、こうあって欲しいのだそうです。

牡丹花は、咲き定まりて静かなり

花の占めたる 位置のたしかさ。

(木下利玄)

(豊南坂幼稚園)